



2019年3月期(平成31年3月期)

# 第2四半期決算説明会

2018年11月20日

株式会社ジャムコ



# 技術のジャムコは、 士魂の気概をもって



- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

● この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。

● この資料における数値について、記載金額は、表示桁未満を切捨てしており、増減率(%)は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。

● 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。

## Contents

### SECTION

### 1

## 2019年3月期 第2四半期決算の状況

- 04 | グループ連結P/L
- 05 | 連結経常利益の前年同期比差異要因
- 06 | 連結経常利益の計画比差異要因
- 07 | セグメント別 売上高・経常利益-①(前年同期比)
- 08 | セグメント別 売上高・経常利益-②(前年同期比)
- 09 | グループ連結B/S
- 10 | グループ連結 試験研究費/設備投資額/減価償却費
- 11 | グループ各社の状況 (2019年3月期/上期)
- 12 | 通期見通し

### SECTION

### 2

## 重要項目と課題進捗

- 14 | 中期ビジョン
- 15 | 中期の課題と対応
- 16 | 中期課題の進捗-①
- 17 | 中期課題の進捗-②
- 18 | 中期課題の進捗-③

# 2019年3月期 第2四半期決算の状況

- 04 | グループ連結P/L
- 05 | 連結経常利益の前年同期比差異要因
- 06 | 連結経常利益の計画比差異要因
- 07 | セグメント別 売上高・経常利益-①(前年同期比)
- 08 | セグメント別 売上高・経常利益-②(前年同期比)
- 09 | グループ連結B/S
- 10 | グループ連結 試験研究費/設備投資額/減価償却費
- 11 | グループ各社の状況 (2019年3月期/上期)
- 12 | 通期見通し

## SECTION

# 1

【単位:百万円】

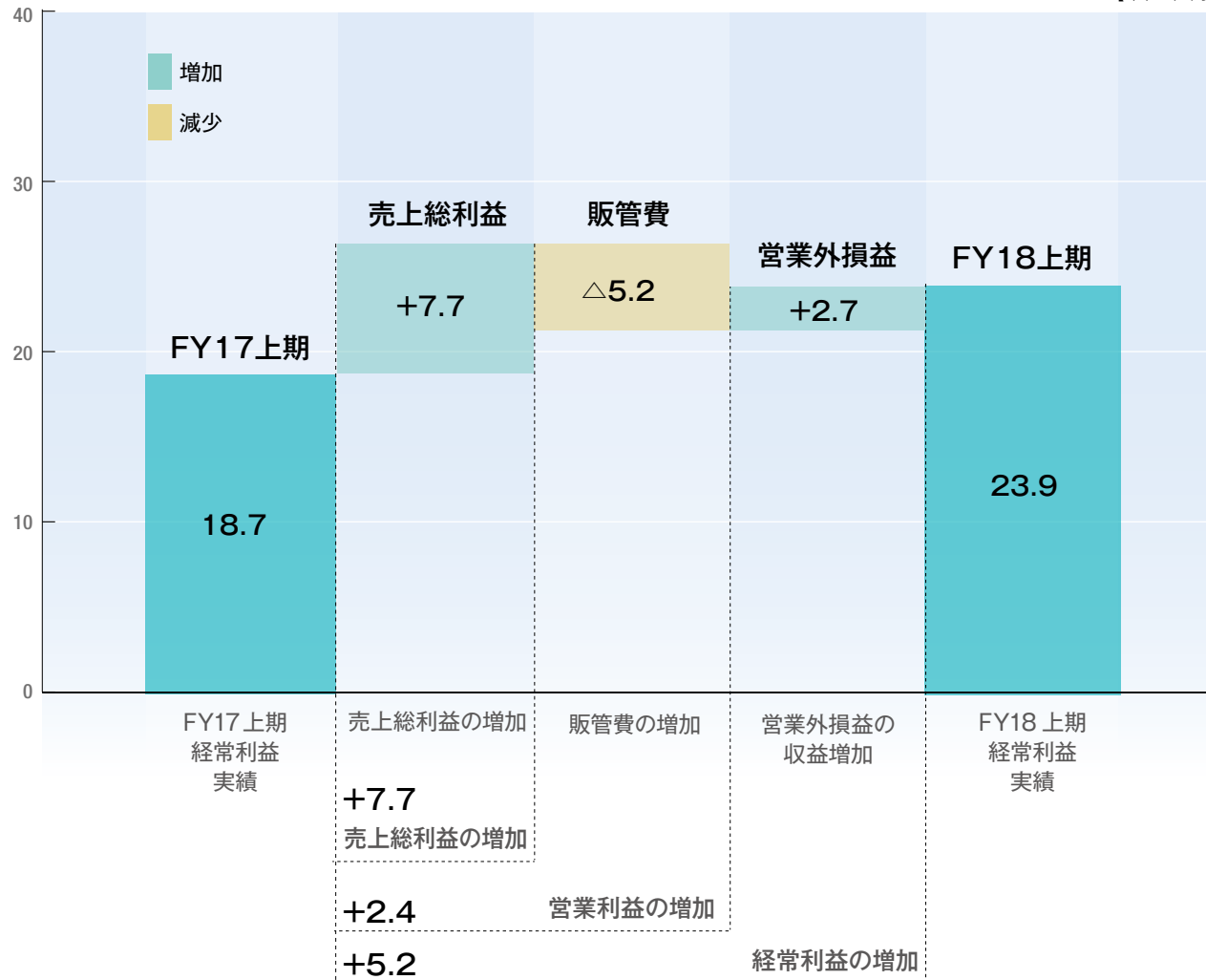
	FY17上期 (実績)	FY18上期 (計画)	FY18上期 (実績)	前年同期比 (増減)	計画比 (増減)
売上高	38,043	40,300	40,354	2,310	54
売上総利益	5,841	6,530	6,612	770	82
販管費	3,934	4,970	4,459	525	△ 510
営業利益	1,906	1,550	2,152	245	602
営業外損益	△ 33	△ 150	242	275	392
経常利益	1,873	1,400	2,394	521	994
税引前利益	1,844	1,390	2,268	423	878
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,034	930	1,430	395	500
1株当たり四半期純利益 (円)	38.57	34.66	53.32	—	—
売上為替レート (円/USドル)	110.72	105.00	108.73	—	—

(注)計画とは、2018年5月8日の決算発表時の業績予想数値です。

# 連結経常利益の前年同期比差異要因

## ■ 前年同期比 +5.2億円

【単位:億円】



## Point

### 売上総利益

- 内装品スペアパーツ販売の増加
- シート事業の改善

### 販管費

- 保証工事費の増加 △2.4億円
- 試験研究費の増加 △1.7億円
- その他 △1.1億円

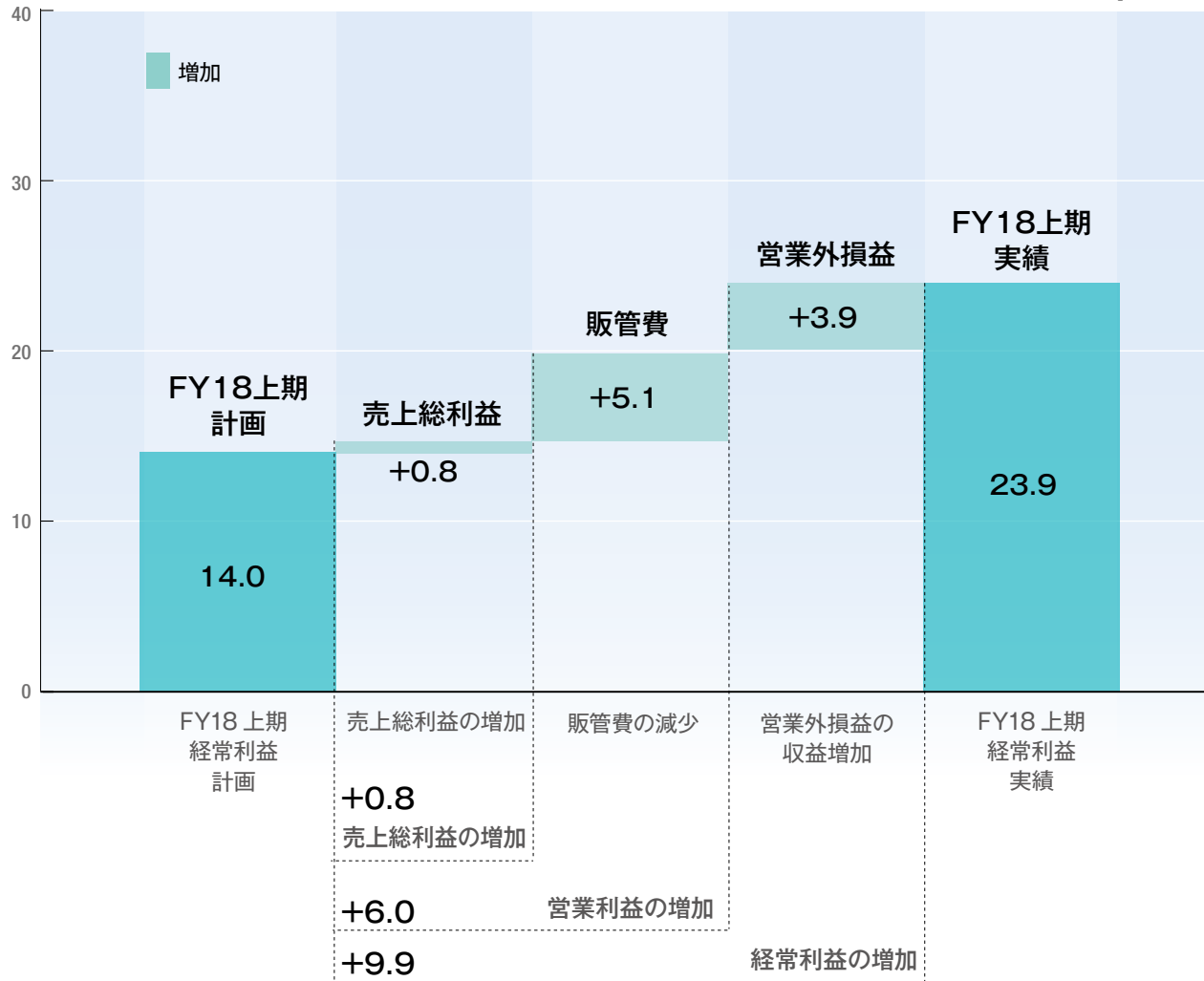
### 営業外損益

- 為替差益の増加 +4.3億円
- 支払補償費の増加 △0.7億円
- その他 △0.9億円

# 連結経常利益の計画比差異要因

## ■ 計画比 +9.9億円

【単位:億円】



## Point

### 売上総利益

- 為替円安による売上高の増加
- 工事損失引当金繰入額の増加

### 販管費

- 保証工事費の減少 +1.6億円
- 試験研究費の減少 +1.4億円
- その他 +2.1億円

### 営業外損益

- 為替差益の増加 +4.3億円
- その他 △0.4億円

## セグメント別 売上高・経常利益-①(前年同期比)

【単位:百万円】

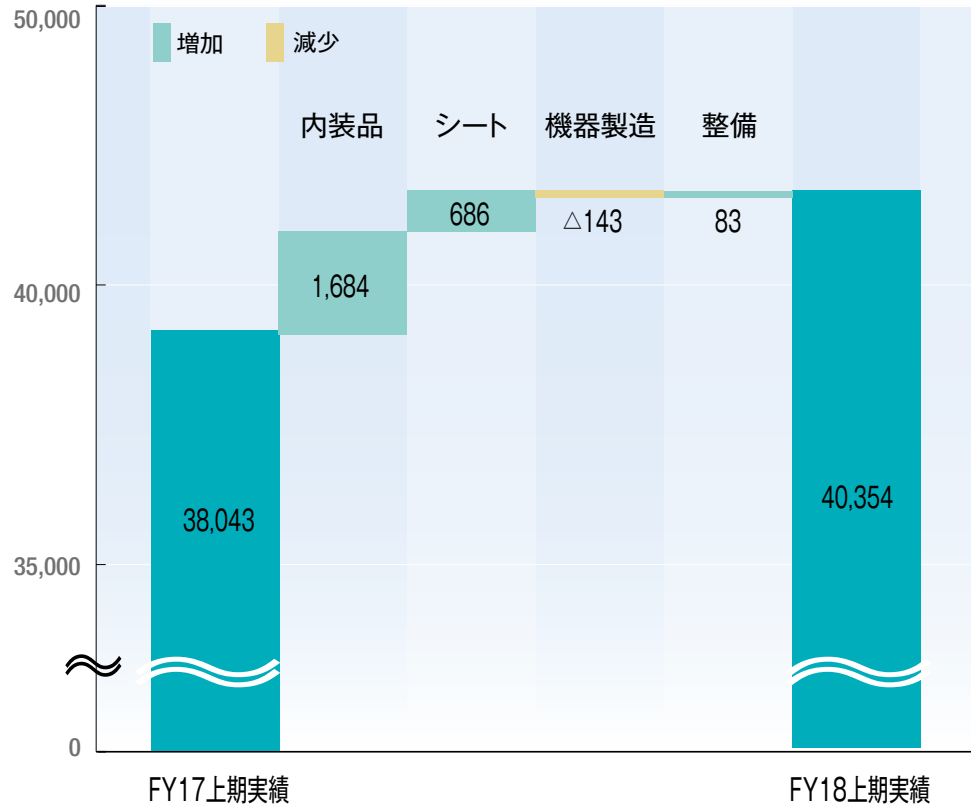
	売上高			経常利益		
	FY17上期 (実績)	FY18上期 (実績)	前年同期比 (増減)	FY17上期 (実績)	FY18上期 (実績)	前年同期比 (増減)
航空機内装品	25,846	27,530	1,684	3,833	3,083	△ 750
航空機シート	6,274	6,960	686	△ 1,860	△ 674	1,186
航空機器製造	2,799	2,656	△ 143	△ 70	△ 62	8
航空機整備	3,122	3,205	83	△ 30	47	77
その他	0	0	0	1	0	0
合計	38,043	40,354	2,310	1,873	2,394	521

(注)「その他」はオレンジジャムコの事業を含んでおります。

## セグメント別 売上高・経常利益-② (前年同期比)

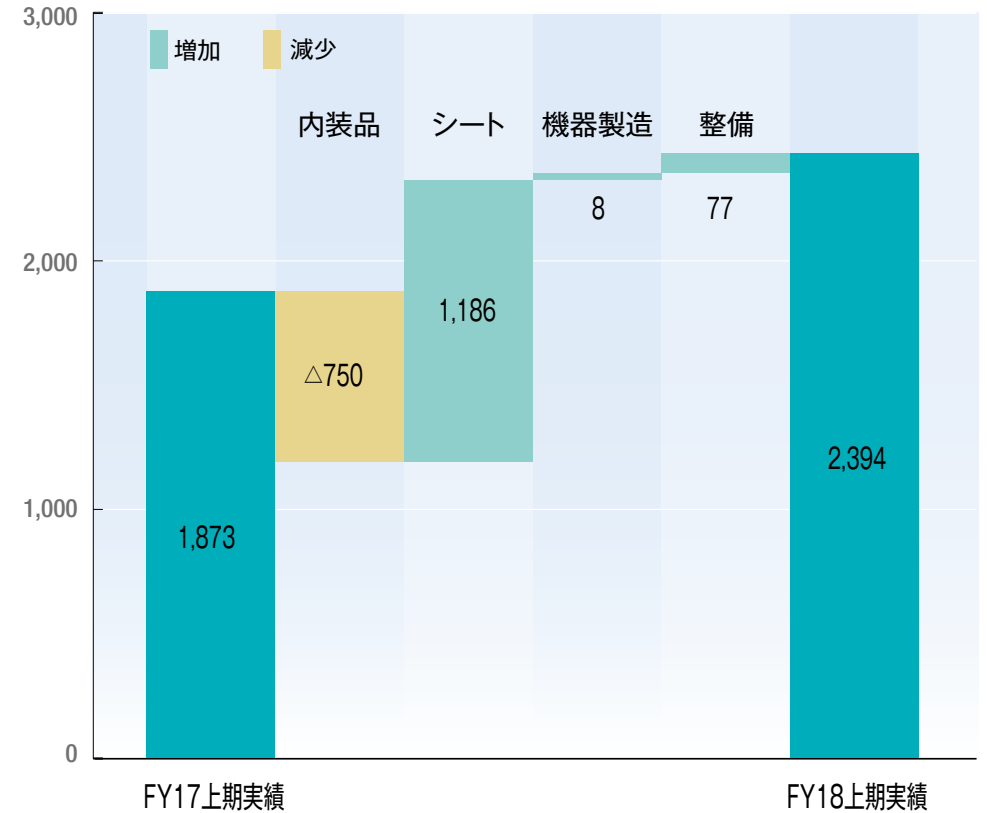
## 売上高

【単位:百万円】



## 経常利益

【単位:百万円】



## Point

- 内装品はスペアパーツ販売の増加や飛行試験用777X型機向けラバトリーの出荷による売上増加
- シートは製品の出荷量が増加

## Point

- 内装品は工事損失引当金の繰入額の増加
- シートは前年同四半期における一部プログラムの初期コスト増による影響の反動



【単位:百万円】

科目	FY17末 2018年3月31日現在	FY18 2Q末 2018年9月30日現在	増減
〈資産の部〉			
<b>流動資産</b>			
現金及び預金	3,833	3,864	30
受取手形及び売掛金	22,451	21,027	△ 1,424
棚卸資産	42,658	45,897	3,239
その他流動資産	3,767	2,982	△ 784
<b>流動資産合計</b>	<b>72,711</b>	<b>73,771</b>	<b>1,060</b>
<b>固定資産</b>			
有形固定資産	13,840	13,676	△ 163
無形固定資産	1,943	1,813	△ 130
投資その他の資産	5,961	6,419	458
<b>固定資産合計</b>	<b>21,745</b>	<b>21,909</b>	<b>164</b>
<b>資産合計</b>	<b>94,456</b>	<b>95,681</b>	<b>1,225</b>

科目	FY17末 2018年3月31日現在	FY18 2Q末 2018年9月30日現在	増減
〈負債の部〉			
<b>流動負債</b>			
支払手形及び買掛金	7,518	8,116	598
電子記録債務	7,462	8,152	689
短期借入金	22,239	19,217	△ 3,021
1年内返済予定の長期借入金	900	1,000	100
工事損失引当金	2,066	2,367	300
その他流動負債	12,115	13,009	893
<b>流動負債合計</b>	<b>52,302</b>	<b>51,862</b>	<b>△ 439</b>
<b>固定負債</b>			
長期借入金	4,500	5,000	500
その他固定負債	8,100	8,289	188
<b>固定負債合計</b>	<b>12,600</b>	<b>13,289</b>	<b>688</b>
<b>負債合計</b>	<b>64,903</b>	<b>65,152</b>	<b>249</b>
〈純資産の部〉			
<b>純資産合計</b>	<b>29,553</b>	<b>30,529</b>	<b>976</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>94,456</b>	<b>95,681</b>	<b>1,225</b>

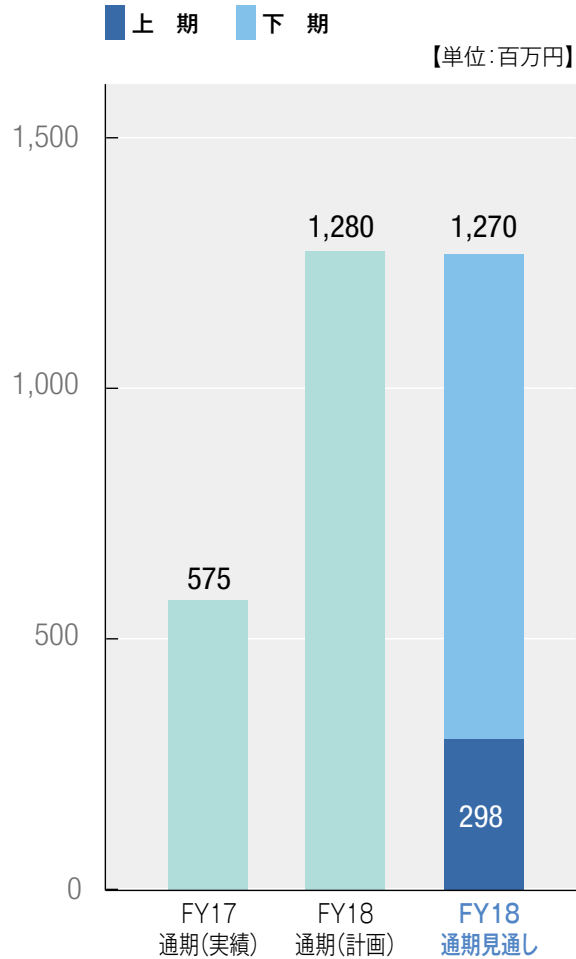
## Point

- 棚卸資産は内装品及びシートの開発費仕掛品が増加
- 投資その他の資産はMRO Japan(株)への資本参加により増加

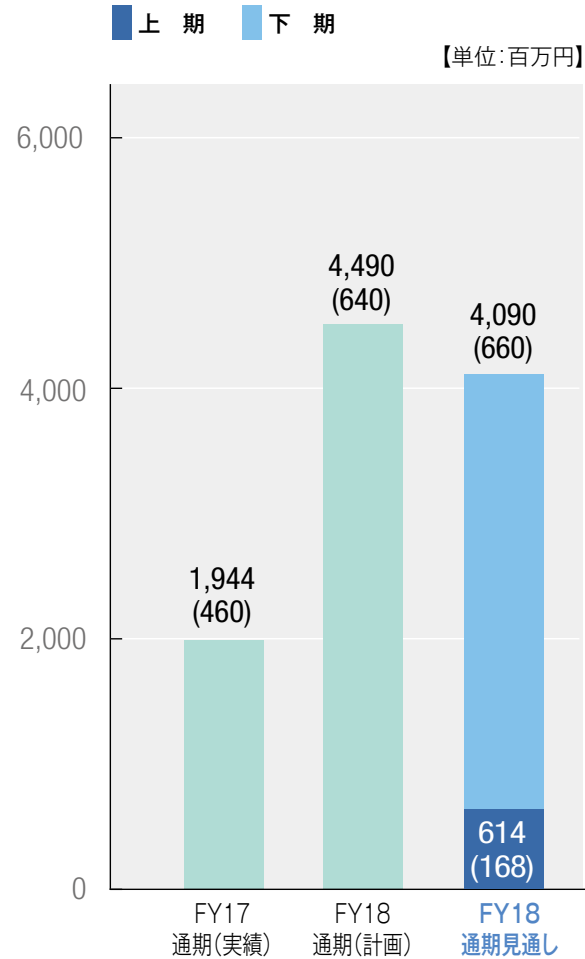
- 売掛債権回収により借入金が増加
- 自己資本比率 30.4% → 31.1% 0.7ポイント上昇

# グループ連結 試験研究費/設備投資額/減価償却費

試験研究費(連結)

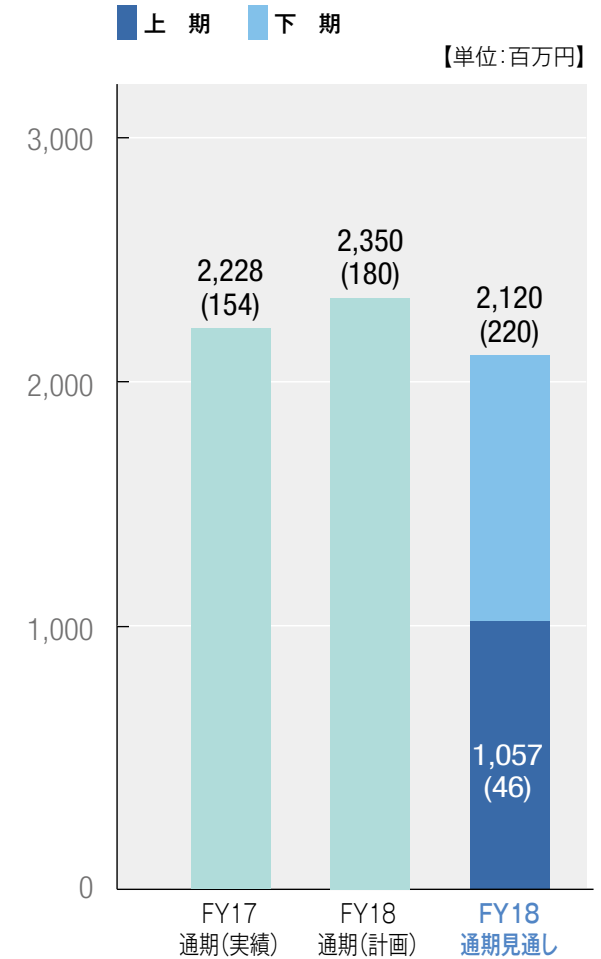


設備投資額(連結)



※設備投資には( )内の全リース物件を含む。

減価償却費(連結)



※( )内はリース資産分。

(注)計画とは、2018年5月8日の決算発表時の業績予想数値です。

## グループ各社の状況 (2019年3月期/上期)

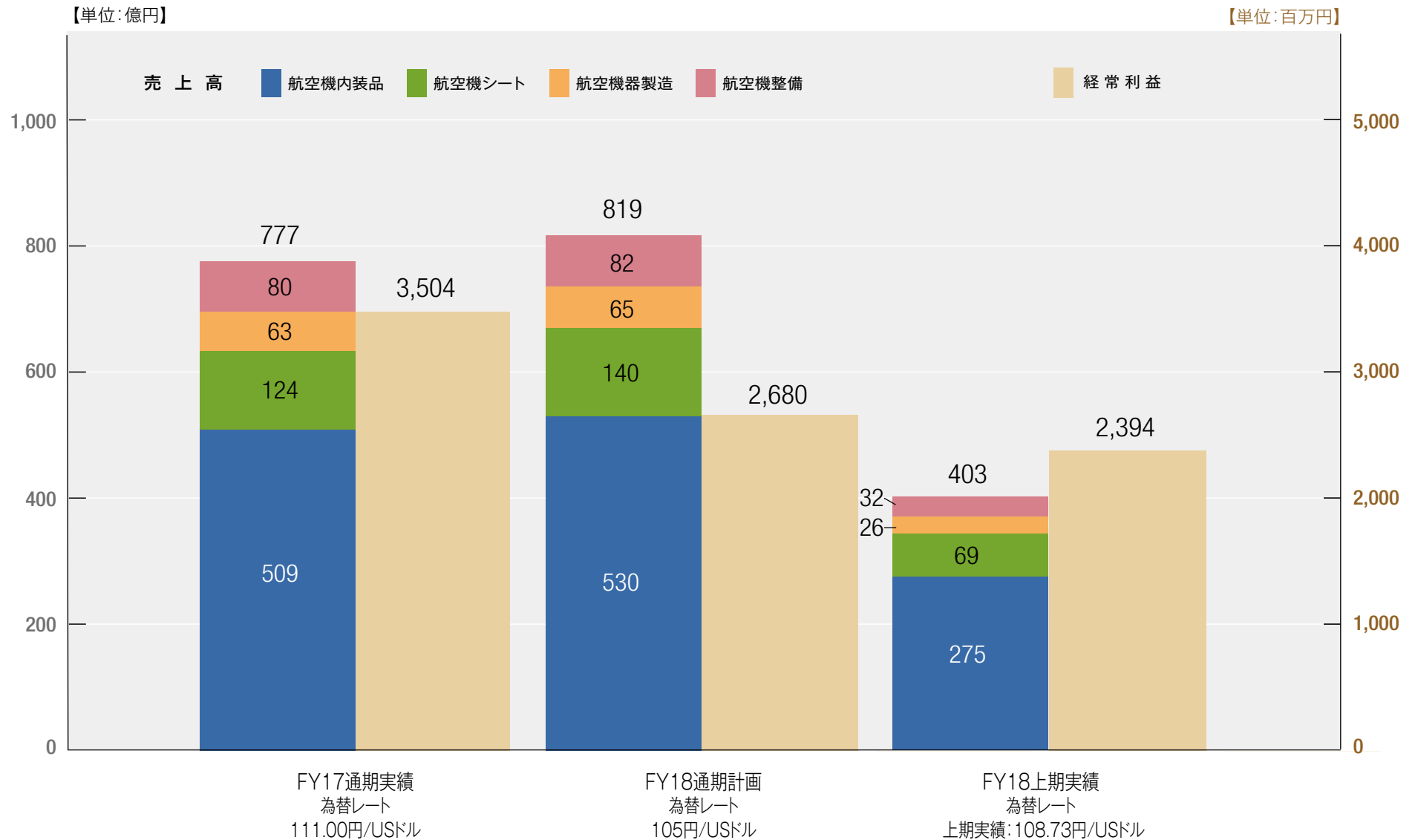
【単位:百万円】

	当社	新潟 ジャムコ	宮崎 ジャムコ	中条 ジャムコ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ エアロデザイン エンジニアリング	ジャムコ シンガポール	ジャムコ フィリピン	ジャムコ エアロ マニュファク チャリング	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	オレンジ ジャムコ	シンガポール ジャムコ サービス
売上高	36,252	1,909	669	485	10,485	397	722	335	689	353	237	54	1,968
営業利益	1,465	251	△ 14	5	365 (245)	2	△ 138	26	67	12	31	2	69
経常利益	2,073	259	△ 13	4	327 (206)	17	△ 113	26	72	12	28	2	69
当期純利益	1,470	178	△ 9	0	274 (179)	15	△ 106	△ 10	47	9	18	1	57

(注1)シンガポールジャムコサービスは持分法適用関連会社です。

(注2)ジャムコアメリカは787関連開発費の償却について当社と同じ基準で会計処理しています。括弧内の数値は「米国基準」における数値です。

## 通期見通し



# 重要項目と課題進捗

- 14 | 中期ビジョン
- 15 | 中期の課題と対応
- 16 | 中期課題の進捗-①
- 17 | 中期課題の進捗-②
- 18 | 中期課題の進捗-③

## SECTION

# 2

## 中期ビジョン

- **航空機分野に特化し、内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の能力を集約し、航空機内装品のリーディング・カンパニーとなる**

## 中期経営指標

- **収益性指標：連結経常利益率 7%以上**
- **効率性指標：連結ROA 7%以上**
- **配当方針：連結配当性向20~30%を目安とする**

# 中期の課題と対応

## 航空機内装品

- ① 長期安定事業基盤となる次期新型機向け内装品の契約確保への取組みの強化
- ② 顧客からのコスト、リードタイム削減要求への対応に加え、新規プロジェクトの開発プロセス改善を行い、今後拡大する新規開発案件へ対応
- ③ サプライチェーンを強化し、品質・コスト・リードタイムをより一層改善
- ④ 部材、外注委託費に関するベンチマークを実施し、委託業務の見直し、最適化によりコスト競争力を向上

## 航空機シート

- ① 標準化されたプラットフォームを活用したスタンダードシートの開発・販売を強化  
効率の良い開発への移行と製造プロセスの改善を促進し、安定収益化を推進
- ② 次世代に向けた魅力的な製品開発により受注・販売の促進
- ③ グループサプライチェーンの最適化を図り、生産効率を向上

## 航空機器製造

- ① 技術的付加価値の高い製品の受注拡大を図り、競争力を強化
- ② 関連企業を含め品質及び生産効率を追求し収益性を向上
- ③ 炭素繊維成型などの製造技術を内装品やシートに応用

## 航空機整備

- ① 飛行安全の確保と品質保証体制のたゆまぬ強化
- ② 付加価値の高い新たなビジネスへの取組みを強化
- ③ 事業領域、契約条件の見直し等の合理化の推進
- ④ MRO Japan株式会社（沖縄に展開予定の航空機整備改造業者）への参画

## 航空機内装品

### 次期新型機への取組み

- ボーイング次期新型機向け内装品への積極的なアプローチ
- ボーイング777X型機向けラバトリーを納入 (5月)

### 新規開発案件への対応

- J-Way活動 (JAMCOモノづくり改革) を推進
- 設計業務の自動化とIT化を推進

### サプライチェーンの強化とコスト競争力の向上

- 内製化と部品海外調達によるサプライチェーンの見直し



ボーイング777X向け飛行試験用ラバトリー初出荷



エアバスA350向けICEリアギャレー



## 航空機シート

### スタンダードシートの開発・販売・製造プロセス改善

- ボーイング787型機向け「Venture」初出荷予定
- 安定収益化に向けた改善活動を継続

### 次世代向け製品開発

- 新コンセプトシートをドイツ・ハンブルグの Aircraft Interiors Expo 2018で発表
- 設計業務の自動化とIT化を推進

### サプライチェーンの最適化

- 宮崎ジャムコを起点に九州地区でのサプライチェーンを強化
- 部品の内製化促進



スタンダード・シート「Venture」



新コンセプトシート:Wing Seat

## 航空機器製造

### 受注拡大、競争力強化

- CFRP熱可塑製品への取組み
- 新規エンジン部品を受注（次期基幹ロケット用エンジン向け配管）

### 収益性の向上

- エンジン向け製品の生産性向上
- 炭素繊維構造部材の良品率向上

### シナジー効果

- 機械加工技術を活かした内装品部品の内製化に着手

## 航空機整備

### 飛行安全

- 引き続き高品質な航空機整備を提供

### 事業領域見直し、合理化、新規ビジネス

- 航空機用高圧ガスボトルの整備開始
- エアライン向けライン整備の受託強化

### MRO Japan株式会社への参画

- 9月28日付で第三者割当増資引き受け 出資比率25%



MRO Japan株式会社

# 2019年3月期 第2四半期決算説明会 添付資料

- 20 | 企業グループ概要
- 21 | 事業概要-①航空機内装品製造事業
- 22 | 事業概要-②航空機シート製造事業
- 23 | 事業概要-③航空機器製造事業
- 24 | 事業概要-④航空機整備事業
- 25 | 事業概要-⑤国内関連会社
- 26 | 事業概要-⑥海外関連会社
- 27 | 航空機メーカーの受注残
- 28 | 新型旅客機の開発・生産状況
- 29 | ボーイング・エアバスの受注・納入状況
- 30 | ボーイングの受注・納入状況(2018年1月～9月累計)
- 31 | エアバスの受注・納入状況(2018年1月～9月累計)
- 32 | 世界の航空旅客予測
- 33 | ジェット機の運航機材構成予測

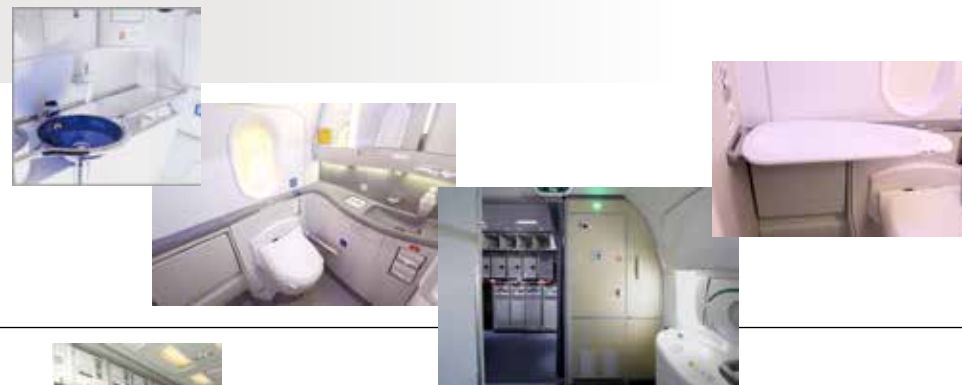
## SECTION 3



## 航空機内装品製造事業

### 航空機用ラバトリー（化粧室）の製造

- ボーイング747-8・767・777・777X・787向け  
ラバトリーを独占供給



### 航空機用ギャレー（厨房設備）の製造

- ボーイング747-8・777・787・767・737に搭載
- エアバスA380・A330・A340・A320に搭載
- 世界の航空会社約100社へ納入
- 787向けギャレーを独占供給
- A350向けICE (Increased Cabin Efficiency) リアギャレーを供給



### 航空機改修事業

- 客室内装備品の新規搭載、配置換え、及びキャビンクルーの  
休憩室搭載等に関する、設計、プロジェクトの管理、取付用部品の製造と認証取得
- アメリカ連邦航空局 (FAA) よりODA認定を取得 (ジャムコアアメリカ)  
FAAに代わって航空機客室改造の追加型式証明の発行が可能
- 欧州航空安全庁 (EASA) より設計認証 (DOA) を取得 (ジャムコエアロデザイン&エンジニアリング)



## 航空機シート製造事業

### 航空機用シートの製造

- ボーイング787向けプレミアムクラスシート  
スタンダードシート (商品名Journey-Evo, Venture)
- エアバス向けA350 ACS (Airbus Contracted Supplier) シート  
スタンダードシート (商品名Journey™ ビジネスクラスシート)
- シンガポール航空向けファースト、ビジネスクラスシート  
ボーイング777-300ER用ファースト、ビジネスクラスシート  
エアバスA350用ビジネスクラスシート  
エアバスA380用ビジネスクラスシート



シンガポール航空提供



### 航空機用シートコンソールの製造

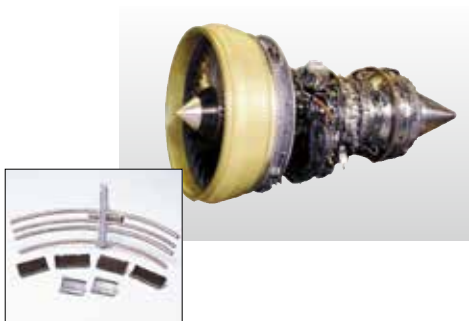
- プレミアムクラス シートコンソール  
シンガポール航空エアバスA380用スイートクラス・シートコンソール  
全日空ボーイング777-300ER用ファーストクラス・シートコンソール



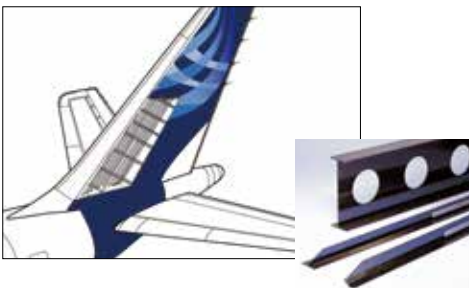
## 航空機器製造事業



航空機用熱交換器及び  
各種航空機搭載機器の製造



ジェットエンジン部品の製造



航空機用炭素繊維構造部材の製造

- エアバスA380用2階床構造部材 (ADP)
- エアバスA350を除くエアバス機の垂直尾翼構造部材 (ADP)
- エアバスA350貨物室床下構造材

## 航空機整備事業

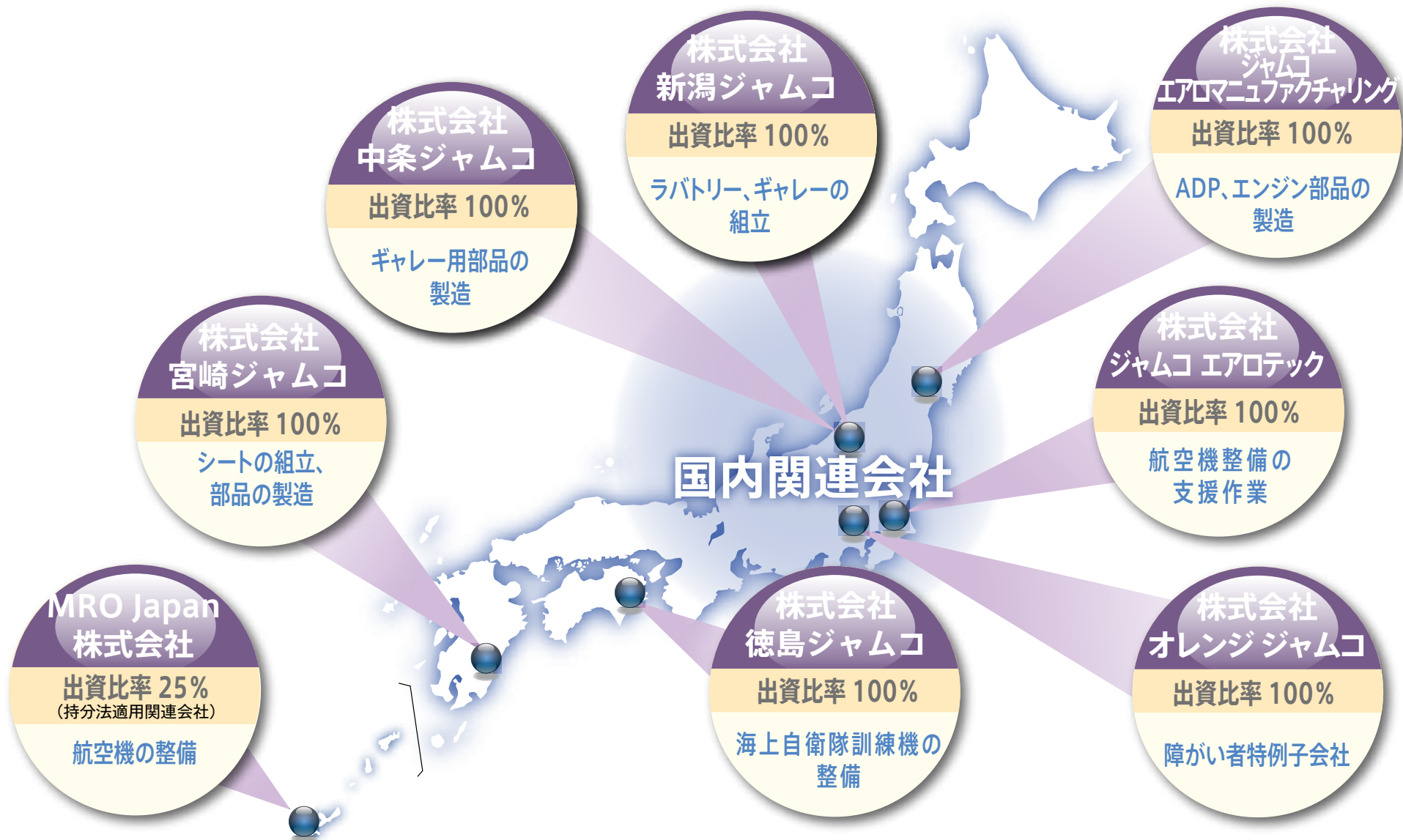


### 防衛省、海上保安庁、航空大学校、 エアラインなどの航空機、 装備品整備事業

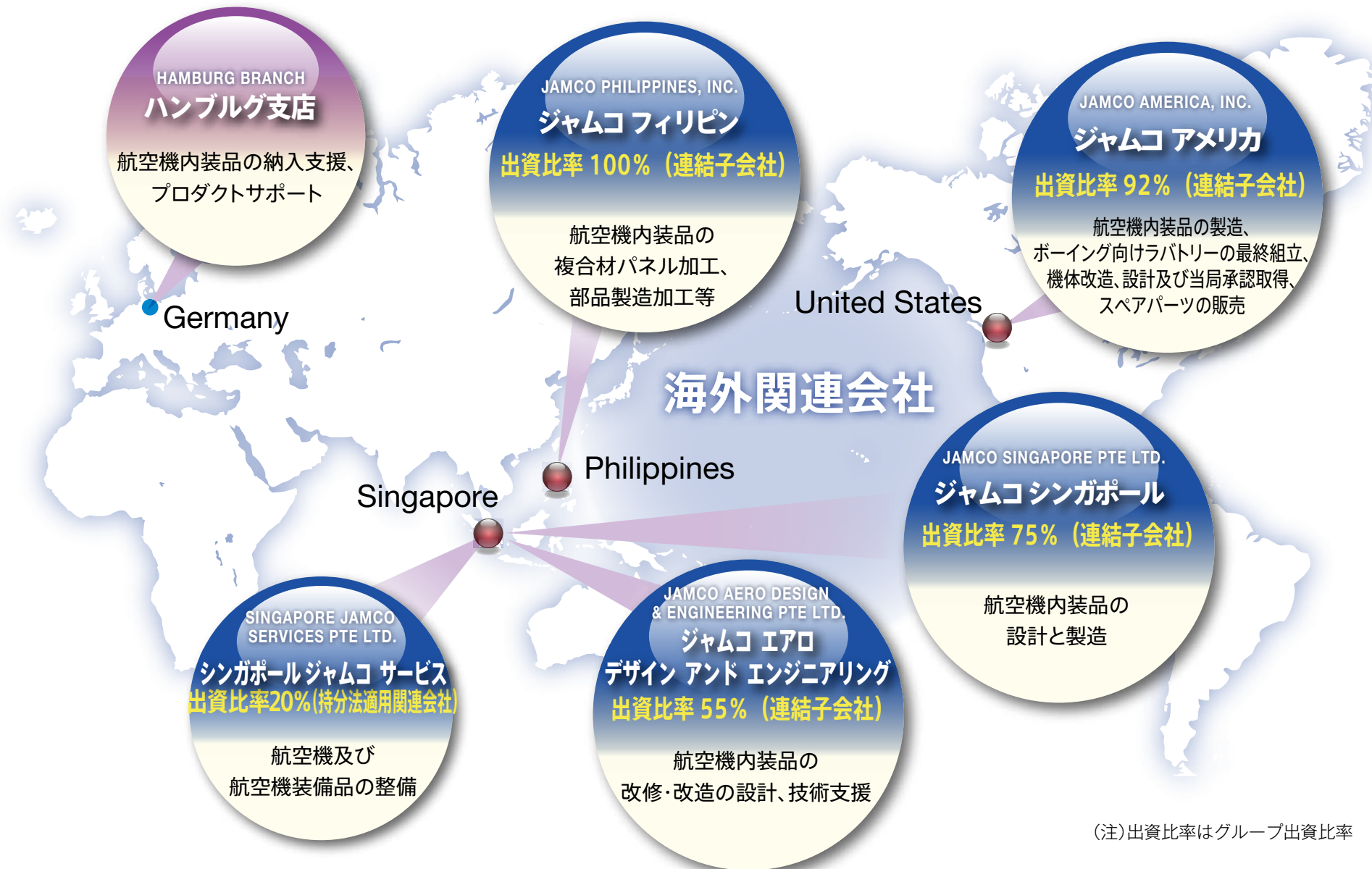


- 中型・小型航空機及びヘリコプターの整備・改造
- リージョナル機の整備
- プロペラ、脚、航空電子機器の整備
- 車輪、ブレーキ、救難用ホイス（吊り上げ装置）のオーバーホール
- 大型旅客機客室内装備品の整備
- エバキュエーション（緊急脱出）スライドの整備
- 航空機用高圧ガスボトルの整備





(注)出資比率はグループ出資比率



## ボーイング社の受注残機数

狭胴機

4,714 機

(前年同期 4,431機)

広胴機

1,218 機

(前年同期 1,228機)

## エアバス社の受注残機数

狭胴機

5,944 機

(前年同期 5,520機)

広胴機

1,082 機

(前年同期 1,171機)

(注)2018年9月末時点

出所：ボーイング社 HP、エアバス社 HP

### ■ 787の生産状況

- 2018年9月末日現在、742機の引き渡しを完了
- 2018年9月末日現在、受注残機数は656機

### ■ 777Xの開発状況

- 2020年に初号機引き渡し予定
- 2018年9月末日現在、受注残機数は326機

### ■ 737MAXの生産状況

- 2018年9月末日現在、219機の引き渡しを完了
- 2018年9月末日現在、受注残機数は4,564機

### ■ A380の生産状況

- 2018年9月末日現在、230機の引き渡しを完了
- 2018年9月末日現在、受注残機数は101機

### ■ A350XWBの生産状況

- 2018年9月末日現在、203機の引き渡しを完了
- 2018年9月末日現在、受注残機数は687機

### ■ A330neoの開発状況

- 2019年に商業運航を開始予定
- 2018年9月末日現在、受注残機数は224機

### ■ A320ファミリーneoの生産状況

- 2018年9月末日現在、471機の引き渡しを完了
- 2018年9月末日現在、受注残機数は5,707機

出所：ボーイング社 HP、エアバス社 HP

## ボーイング・エアバスの受注・納入状況

(2018年1月～9月累計)

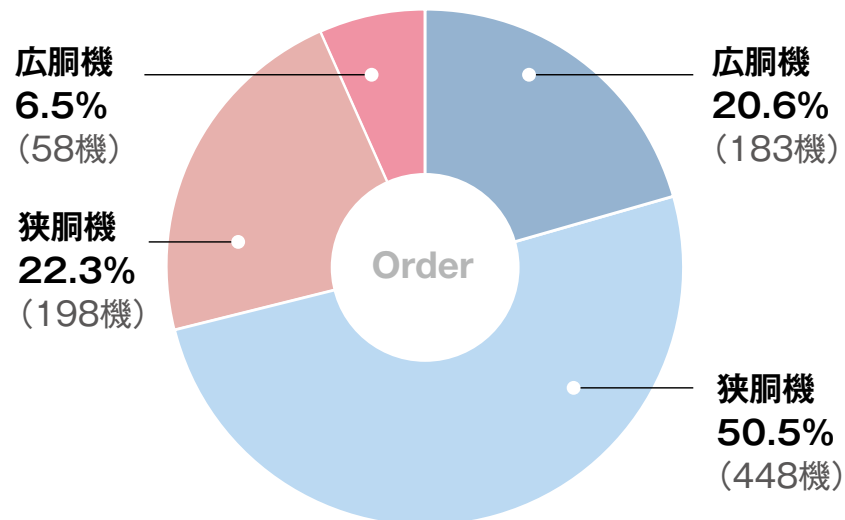
## 受注状況

●エアバス社

**28.9%**  
(256機)

●ボーイング社

**71.1%**  
(631機)



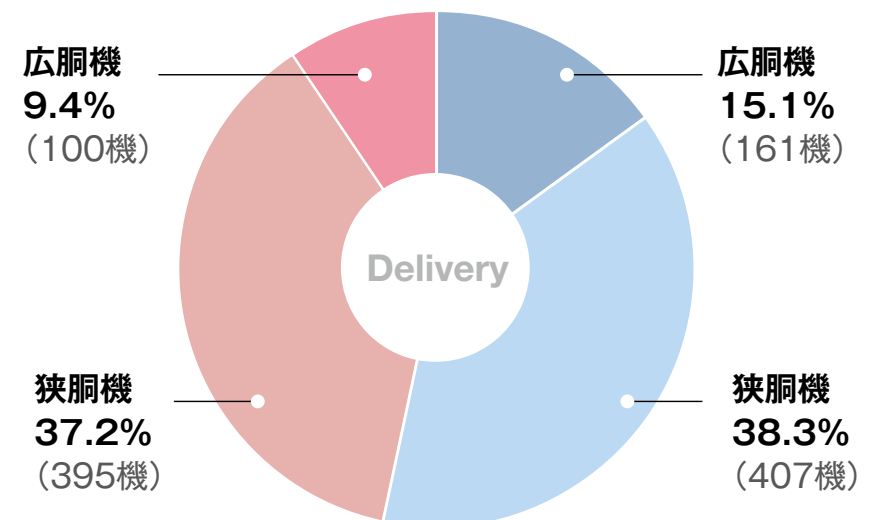
## 納入状況

●エアバス社

**46.6%**  
(495機)

●ボーイング社

**53.4%**  
(568機)



出所：ボーイング社 HP、エアバス社 HP

## ボーイングの受注・納入状況

(2018年1月～9月累計)

	受 注	納 入	受 注 残
ボーイング合計	631	568	5,932
<b>747</b>	14	5	21
<b>777X</b>	0	0	326
<b>777</b>	27	37	92
<b>787</b>	104	106	656
<b>767</b>	38	13	123
<b>737</b>	448	407	4,714

(注1) ■色の機種は広胴機(ワイドボディー機)を示す。

(注2) 受注は正味受注機数を示す。

出所：ボーイング社 HP

## エアバスの受注・納入状況

(2018年1月～9月累計)

	受 注	納 入	受 注 残
エアバス合計	256	495	7,026
<b>A380</b>	14	8	101
<b>A350</b>	36	61	687
<b>A330/A340</b>	8	31	294
<b>A320ファミリー</b>	198	395	5,944

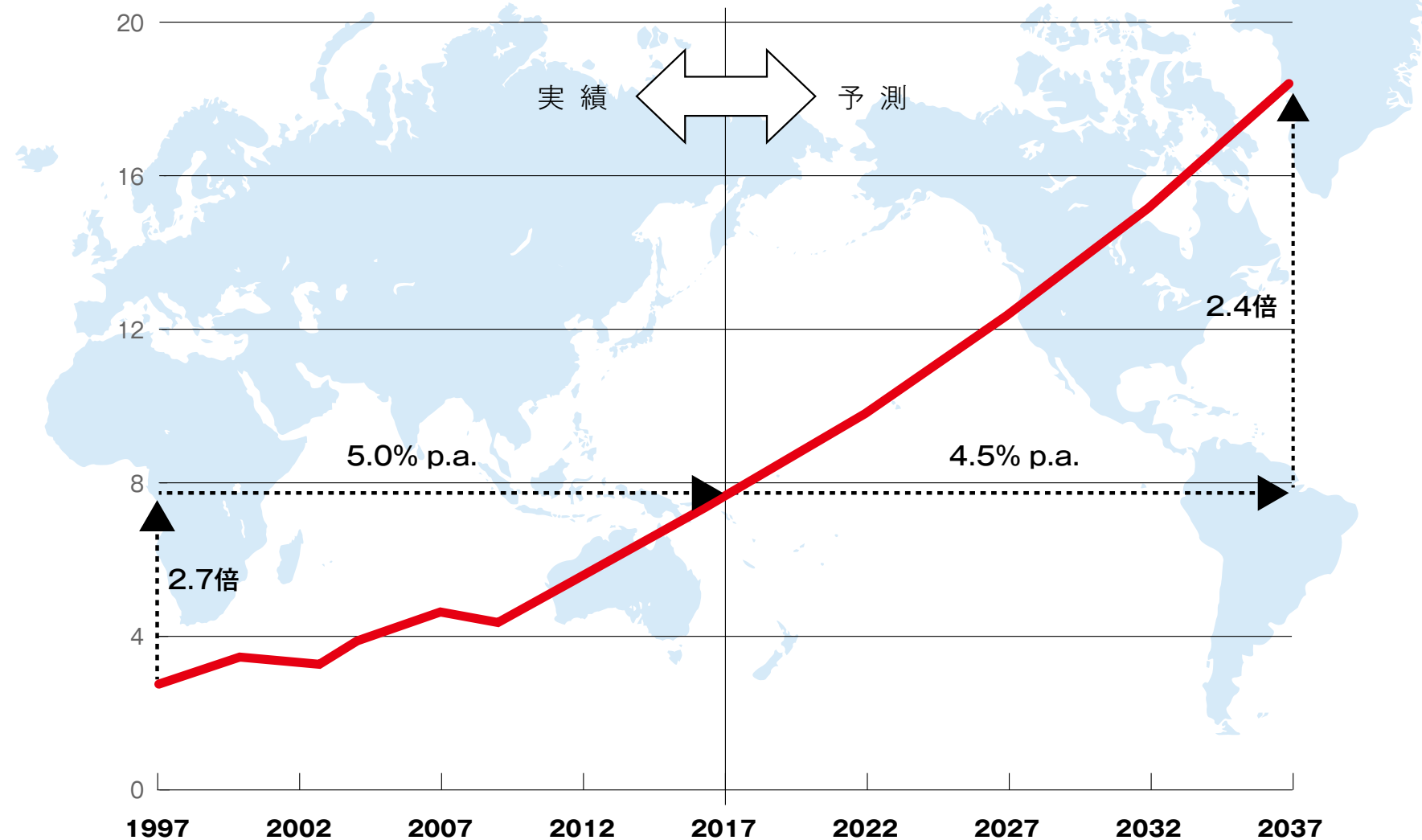
(注1) ■色の機種は広胴機(ワイドボディー機)を示す。

(注2) 受注は正味受注機数を示す。

出所：エアバス社 HP

## 2018-2037年の20年間の航空旅客輸送量の成長率は年平均4.5%と予測

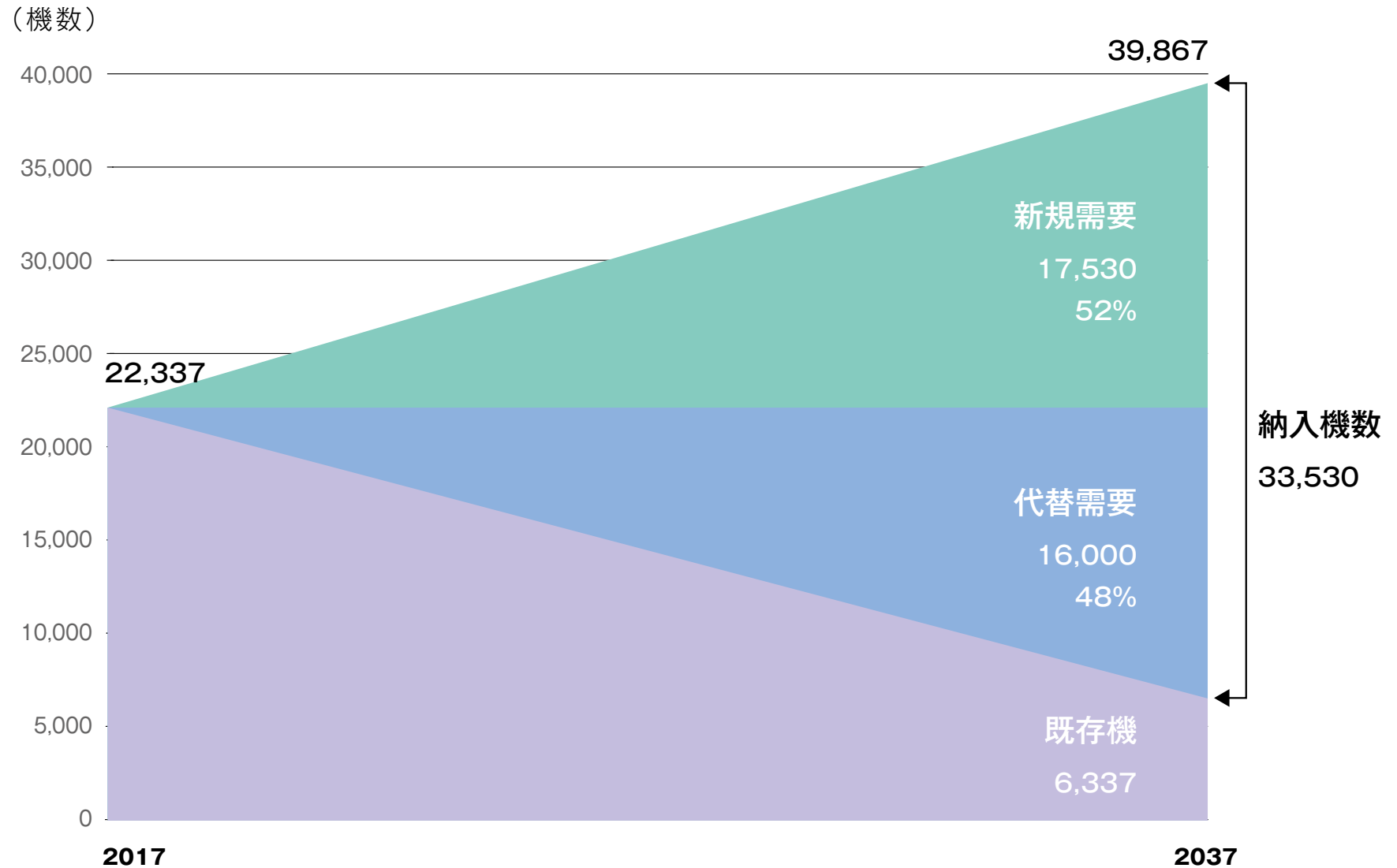
航空旅客輸送量  
(兆人キロメートル)





## ジェット機の運航機材構成予測

今後20年間の世界の需要は33,530機、その内新規需要は17,530機



技術を翼に世界の空へ

 **Jamco**  
ALWAYS FLY TOGETHER



*Always Fly Together*